

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標 『自ら未来を切り拓く 心豊かでたくましい人間を育てる』
教育目標を達成するため、次のような学校づくりをめざします。

- ◎ 学習活動と特別教育活動の両面を充実させ、生徒の希望する進路の実現を図る学校
- ◎ 生徒・保護者および地域から愛され、信頼されるとともに、安心で安全な学校

2 中期的目標

- 1 教員の授業力の強化と「確かな学力」の育成
 - (1) 授業第一主義を確立する。(授業内容の充実 授業時数の確保 授業規律の確立)
 - (2) 教員相互の授業参観・研究授業を活性化し、授業内容・指導方法を改善する。(年間2回の授業研修期間を設定及び校内研修の実施)
 - (3) 生徒の自習力や学習意欲の向上及び環境整備の推進。
※生徒向け授業アンケートにおける「授業に興味・関心を持つことができた」の肯定的回答(平成25年度75%)を毎年2%ずつ引上げ平成28年度には81%をめざす。
生徒向け学校教育自己診断における「学校の授業はわかりやすい」の肯定的回答(平成25年度62%)を毎年2%ずつ引上げ平成28年度には68%をめざす。
- 2 生徒が希望する進路の実現のため、学習指導と進路指導の充実
 - (1) 3年間を見通した進路指導計画によりキャリア教育を充実させ、大学進学等の目標の実現及び、さらに高い目標の設定とその実現をめざす。
 - (2) 各種の補習・講習(放課後および長期休業中など)に、組織的・計画的に取り組む。
 - (3) 進路指導室・進路資料の整備・充実を図る。
※3年生向け学習指導・進路指導満足度調査における「適正な進路指導により意欲的に取組めたか」の肯定的回答(平成25年度65%)を毎年2%ずつ引上げ平成28年度には71%をめざす。
※国公立大学及び関西8大学への現役進学者数(平成25年度102名)を毎年9名ずつ引上げ平成28年度には129名をめざす。
- 3 基本的な生活習慣の改善・定着と学校行事、部活動の活性化
 - (1) 基本的な生活習慣の定着・改善を図るとともに、社会のルールやマナーを身につけさせ、規範意識を向上させる。
ア 「学力向上と学校生活の充実はよき生活習慣から」全教職員で生徒の基本的な生活習慣(あいさつ、時間、身だしなみ、交通マナー、美化活動及び授業態度等)の改善・定着に取り組む。
イ 遅刻指導を強化し、年間遅刻数の前年度減をめざす。
※年間遅刻回数(平成25年度3018回)を毎年100名ずつ減らし、平成28年度には2700回を下回る。
ウ 生徒支援体制の充実を図る。
エ 保護者との信頼関係を構築し、共通理解の形成を図る。
※保護者向け学校教育自己診断の「保護者との意思疎通を図っている」の肯定的回答(平成25年度63%)を毎年2%ずつ引上げ平成28年度には69%めざし情報発信等を行う。
 - (2) 学校行事、部活動の積極的な参加をととして、生徒の自主性や社会性を育成する。
ア 部活動加入率(平成25年度82%)の維持向上と、活性化を図る。
- 4 地域に開かれた学校づくり
 - (1) 本校の教育活動の内容について、積極的に情報を発信する。
ア 学校ホームページの充実を図り、定期的に更新する。(毎週複数回の更新をめざす)
イ 中学校や学習塾などへの訪問活動を充実させる。
ウ 授業公開・学校見学会・体験入学会の一層の充実を図る。
 - (2) 地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。
ア 授業や部活動、生徒会活動などをととして、地域の活動等に積極的に参加し、小学校、保育所など各機関・団体との交流・連携を推進する。
- 5 ICTを活用した校務の効率化
 - (1) 校務処理システムを積極的に活用し、学習状況や健康管理に関する情報と課題を共有し、生徒と向かい合う時間を確保する。
 - (2) 労働安全衛生体制を充実する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校生活全般】・保護者の「子どもは、喜んで学校に通っている」は、85%、生徒の「学校に行くのが楽しい」78%で、昨年と同様の結果であった。教職員の「生徒や保護者の要望によく応えている」92%であったが、保護者の「子どもの学校生活について保護者との意思疎通を図っている」が62%にとどまっております、検証と対応が必要である。</p> <p>【学習指導等】・生徒の「授業は、わかりやすい」は64%で2ポイント向上。保護者の「子どもは、授業が分かりやすいと言っている」が50%であった。授業改善の取組みをさらに進める必要がある。</p> <p>・生徒の「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」が47%であった。言語活動の充実やICTの活用についても推進すべきである。</p> <p>【生徒指導等】・「生活指導の方針に納得できる」について、保護者85%、生徒65%である。保護者には規律ある生徒像を期待されており、生徒も理解していると考えられ、今後もきっちりとした生徒指導が望まれる。</p> <p>・生徒の「将来の進路について考える機会がある」79%と肯定的であるが、一層の充実が必要である。</p> <p>【学校運営】・「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」が67%で13ポイント向上しているが、一層の教員の資質向上に向けた取組みの充実が望まれる。</p>	<p>第1回(6月30日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導について 遅刻者数が平成22年度と比較し、25年度は約2/3程度に減少。また、半数の生徒が年間を通して遅刻0であり、遅刻者減少の成果が表れている。 ・学区撤廃について 学区が撤廃されたが、旧第1学区以外からの入学者はいなかった。勉強とスポーツを両立し落ち着いた学校ということで受験している。大学関係者からは、大学入学以降に伸びていると聞く。 <p>第2回(11月10日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートについて 昨年度と比べ、大きな変化はないが「教材提供の工夫」が若干伸びている。ICTの活用が見られる。 ・地域連携について 新たなものは「能勢街道を歩き、町の魅力を発見する」-参加生徒が部活単位ではなく、取組みに興味を持った生徒たちが参加してきた。今後、このような生徒層を広げるのが課題。地域住民のアンケート調査の結果においては、刀根山生の評判はおおむね良好であった。 <p>第3回(2月9日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懇談会に関する、保護者と教員の意識について 保護者と教員とでは、懇談会に関する意識の差があるのではないかと。生徒が懇談会案内を保護者に見せないで、懇談会は限られた生徒のみ対象という誤解になっている。 ・ICT活用60%について 60%の先生がICTを活用しているようだが、多いのか?大学の講義においても、ICTを活用しているが、紙媒体でほしがる学生も多い。 ・地域の防災等について 地域では、土日に防災避難訓練を行っている。平日に小学校や高校と合同で訓練を行い、実際の姿を確認したい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教員の授業力を強化と「確かな学力」の育成	(1) 教員の授業力の強化、生徒の学力の向上 ア 教員相互の授業参観・研究授業の推進 イ 公開授業および授業アンケートの活用 ウ 授業評価等に関する研修の実施 エ 授業規律の確立	ア・授業公開研修(6月・11月)を中心に、全教員が年2回以上の授業参観を行う。 ・研修や視察により、先導的な授業実践を学ぶ。 ・ICTを授業に活用するための実践に資する研修を行う。 イ・公開授業の対象者及び期間の拡大を図る。 ・授業アンケート(2回)を活用し授業改善を推進する。 ・経験年数の少ない教員に対して、経験豊かな教員による個別研修及び他校教員との合同研修を実施する。 ウ・授業評価等に関する研修を実施する。 エ・メロディチャイムでの着席、教材準備、机上整理の徹底を図る。	ア・全教員による年間2回以上の授業参観実施 ・ICTを活用した授業の教員実施率(25年度56%) イ・授業アンケート「授業に興味関心」肯定的回答77%以上(25年度75%) ・研修の実施及び充実(25年度3回) ウ・授業評価研修の実施 エ・授業アンケート「集中して授業を聞く」肯定的回答の向上(25年度84%)	ア・授業見学を実施しなかった教員が14名いる。次年度は、全員が見学する。 ・ICTを授業に活用した教員は60%。次年度も設備改善と実施率の向上を図る。 ・電子黒板の活用方法について、ICT教員研修を実施した。(○) イ・授業アンケート「授業に興味関心を持つことができた」の肯定的回答75%(○) ウ・パッケージ研修を利用し授業改善に向けた取組みを行い、有意義な成果を残した。 エ・授業アンケート「授業中、集中して先生の話聞き、学習に取り組んでいる」の肯定的な回答84%(○)
2 生徒が希望する進路の実現のため、学習指導と進路指導の充実	(1) 生徒の希望する進路の実現 ア 進路指導部と学年が連携した進路指導の推進 イ 進学講習の充実 ウ 進路意識の向上 エ 進路情報の発信	ア・生徒の希望する進路を実現するため、進路指導部と学年が連携して進路指導を推進する。 ・進路指導部が主催する学年への研修を実施する。 ・進路情報の分析結果の校内共有を図る。 イ・進学希望者向け講習の実施を推進する。 ・夏期休業中の講習は早期に計画・準備する。 ・自習室の整備及び大学生インターンシップを活用し、生徒の自習支援を始める。 ウ・進路ガイダンス、進路講演会、校内模擬試験、大学見学会、オープンキャンパス参加などを通じて進路意識の向上を図る。 ・希望進路の実現にむけて、センター試験受験者を増やし、最後までがんばるよう指導に努める。 エ・進路通信やホームページなども活用して、進路情報の積極的な発信に努める。	ア・学習・進路指導の満足度調査(3年生)「進路指導を受けて自己変革があった」の肯定的回答の向上(25年度65%) イ・進学希望者向け講習の実施状況 ウ・学習・進路指導の満足度調査(3年生)「進路指導に意欲的に取り組んだ」の肯定的回答の向上(25年度:89%) ・国公立関西8大学入学者の増(25年度102名) エ・進路通信の定期的な発行・ホームページの複数回の更新	ア・3年生「進路指導を受けて自己変革があった」76%引き続き、進路指導の充実に努める。(◎) イ・進学希望者向け講習を早朝、放課後、休日、長期休業中に各学年で実施。64%の教員が実施。生徒の希望に即した講習の実施に努める(○) ・大阪大学学生による自習支援を始めた(○) ウ・進路に関する講話、ガイダンス、講演会、大学模擬授業、模擬試験等を年間通じて実施 ・3年生「進路指導に意欲的に取り組んだ」の肯定的回答79%同アンケートの肯定的回答の向上を図る(△) エ・進路通信の発行例年通りに実施。今年度から保護者説明会を土曜日に4回実施した。(◎)
3 学校的な生活習慣の改善・定着と部活動の活性化	(1) 全校体制による生徒指導の推進 ア 規範意識の向上 イ 遅刻指導の継続 ウ 人権教育の推進 エ 生徒支援体制の充実 (2) 学校行事および部活動の充実 オ 体育大会や文化祭などの学校行事の充実 カ 運動部・文化部の部活動の充実	ア・ひきつづき学校全体で生徒指導に取り組み、課題の共通認識を図る。 ・交通マナー(自転車・歩行者)の向上、「チャイム着席」などを継続して指導する。 ・地域の「とねやまあいさつ運動」と連動した取り組みを展開し、あいさつ向上をめざす。 イ・遅刻指導を継続して実施する。 ウ・人権教育推進委員会での人権教育の推進と、いじめ防止委員会の立上げ運営を図る。 エ・学年及び委員会など校内の組織間及び外部機関や中学校との連携を強化して、生徒情報の共有に努め、生徒支援体制の充実を図る。 オ・生徒会、PTA及び地域とも連携し、学校行事のさらなる充実に取り組み。 カ・各部の活動状況・試合結果などをきめ細かくホームページに掲載するなど、活動状況の発信にも努め、加入率の向上を図る。	ア・生徒の意識向上自己診断「集団生活のルールを守っている」の肯定的回答の向上(25年度79%) イ・遅刻数の前年度比減少(25年度3018名) エ・校内及び校外機関等との連携状況 オ・自己診断「文化祭や体育祭は、活発で楽しい」の肯定的回答の向上(25年度86%) カ・HP「刀根山だより」のこまめな発行(25年度10回) ・部活動加入率82%の向上	ア・年間を通じて、生徒会と部活動部員が朝のあいさつ運動を実施している。 ・学校教育自己診断「本校生徒は、集団生活のルールを守っている」の肯定的回答82%(昨年度比3%増)(◎) イ・12月目での遅刻者数2245名(25年度2172名比▲3%)(△) ウ・年度計画通り人権教育を実施した。(○) エ・個別の事案では、子ども家庭センター・教育センター等外部機関との連携を図った。保護者と連携し、高校生活支援カードを活用した。(○) オ・学校教育自己診断「文化祭や体育大会などは、活発で楽しい」の肯定的回答84%(昨年比▲2%)(○) カ・部活動の活躍を「刀根山トピックス」として、18回HPに掲載した。中学生対象説明会で部活動状況を知らせるニュースを作成配付した。(◎) ・部活動の加入率86.1%今後とも、部活動の加入率の向上と活性化を図る(◎)
4 地域に開かれた学校づくり	(1) 学校情報の発信 ア ホームページ・保護者向けメールマガジンの充実 イ 学校説明会・体験入学会等の充実 (2) 地域との交流・連携の推進 ウ 地域の学校や保育園などとの連携	ア・ホームページの充実及び保護者向けメールマガジンの活用により、学校情報をさらに積極的に発信する。 イ・学区撤廃に対応し、より広域の中学校や学習塾への訪問を強化する。 ・学校説明会や体験入学の内容を充実させる。 ウ・地元中学校の地域教育協議会(すこやかネット)に参加する。 ・小学生や中学生に出前授業等を実施する。 ・地域の学校や福祉施設等との連携事業及び自治会等と連携したあいさつ運動や清掃活動、防災行事などに取り組む。	ア・ホームページの更新回数・閲覧者数、メールマガジンの発信回数増(25年度HP更新47回、閲覧者49005名、メルマガ56回) 学校協議会での評価 イ・中学校等への訪問回数 学校説明会の開催回数及び参加人数の増(25年度中学校訪問40校、参加人数816名) ウ・すこやかネットへの参加 ・出前授業などの実施状況 ・地域行事等への参加状況	ア・学校ホームページの更新回数53回、1年間の閲覧者数48599名、メールマガジン発信回数49回(○) イ・豊能地区をはじめ吹田、茨木、大阪市の中学校31校を訪問した。 11月にオープンスクール、12月と1月に学校説明会を実施し生徒716名の参加者があった。保護者は31名増加(○) ウ・刀根山支援学校、刀根山病院、地域の敬老の会、豊中市成人式、公民館活動等の部活動が出向いた。地域の幼稚園、保育所の園児を招いての活動を実施した。今後も、清掃活動や防災活動への協力を図っていく。(◎) ・大阪大学からインターンシップを受け入れた。
5 ICTによる校務の効率化	(1) 校務情報システムの積極的な活用 (2) 労働安全衛生管理体制の充実	ア・生徒の出席状況や学習状況、健康管理に関する情報を教員間で共有する。 イ・業務の効率を図り、生徒と向き合う時間を確保する。 ウ・安全衛生委員会の定期開催 毎月の職場巡視の実施	ア・教員のICT活用状況 イ・勤務時間以外の業務時間の減少 ・時間外月80時間以上の職員をなくす ウ・安全衛生委員会の毎月開催をめぐす	ア・校務処理システムの運用について、教務部情報グループを中心に研修会の開催や職員会議での説明により、積極的な活用を図った。(○) イ・校務処理システムのトラブル等のため、勤務時間以外の業務時間の減少が図られたかどうかは不明。 ・10月以降80時間を超える勤務者1名。引き続き、軽減の対策を図る。(○) ウ・安全衛生委員会を4回実施した。職場巡視については、産業医の執務の際に実施した。引き続き、労働安全衛生体制の充実を図る(○)